

38 東京大学法学・文学の教授上に用いる英語を廃し邦語を

用い字典訳纂用書反訳並びに独逸学術を採るの件上申

〔明治十六年四月〕

東京大学某学科教授上ニ用フル英語ヲ廃シ邦語ヲ用ヒ字典
訳纂用書反訳等并ニ独逸学術ヲ採ルノ件ニ係リ上申

東京大学ハ本邦各学ノ基礎ニシテ其体制ヲ具備セシメ教授上主
ハラ邦語ヲ用ヒ其学業ノ益精確淳美ナランコトヲ要スルハ夙ニ
本省ノ目的ニシテ数年前ヨリ今日ニ至ルマテ常ニ其計画ヲ為
サ、ルハナシ抑該学ノ今ヲ距ル十年前其未タ専門学科ノ設ケナ
キ件ニ在テハ英仏独ノ三語ヲ教授スル語学校ノ一種ニ過キス明
治五年第一大学区第一番中学ト改称スルニ及テモ仍ホ其学科ハ
欧米普通教育ノ範圍ニ出テス尋テ開成学校ト改称スルニ方リ始
テ専門諸学科ヲ設置ス然ルニ其学科中泰西ニ採ラサルヘカラサ
ルモノ従前教授上ノ用語ハ英仏独ノ三語ナルヲ以テ此際亦此三
語ノ生徒ニ応スルモノ無カルヘカラサルニ似タリト雖モ将来主
ハラ邦語ヲ用ヒントスルニアルカ為メニ仍ホ三語ヲ并存スレハ
此計画ノ施設ヲ妨クルノ恐レアルノミナラス経費不貲ノ憂アリ
是ヲ以テ三語中仏独ノ二語ハ之ヲ廃止スルコトニ決セリ而シテ
独リ英語ヲ存スルモノハ英語ノ我ニ普ク行ハレ随テ英語ヲ修ム
ルモノ多キニ由ルト寧口数種ノ外邦語ヲ仮リテ教授センヨリハ
一種ノ外邦語ヲ用フルノ便ナルニ由ルトヲ以テナリ明治十年ニ
至リ法理医文ノ四学部ヲ合セ東京大学ト称セシヨリ以来益本邦

(注記1)

東京大学某学科教授上ニ用フル英語ヲ廃シ邦語ヲ用ヒ字典
訳纂用書反訳等并ニ独逸学術ヲ採ルノ件ニ係リ上申

各学ノ基礎ナル体制ヲ具備セシメ教授上主ハラ邦語ヲ用フルコトヲ期シ学科教員等ノ事ニ関シ予シメ計画スルモノ亦鮮シトセス就中古典講習科甲部乙部等数多ノ学科ヲ創置シ又学生ヲ海外ニ派遣シテ教員ヲ養成シ或ハ本邦著名ノ学士ヲ教員ニ任スル等ノ類枚挙スルニ暇マアラス即チ此等ノ施設ニ因リ外国教員ノ数ヲ減スルコト之ヲ八九年前ニ比スレハ殆ント其三分ノ二ヲ減シ反テ授クル所ノ学科ノ数ハ前年ニ三倍スルノ多キニ至ル其学業ノ進ミ功程ノ著シキ遂ニ今日ノ景況ニ迫ヘリ然而シテ其泰西ニ採ラサルヘカラサルモノハ兼テ独逸語若クハ仏語ヲ講セシメ博ク参考書ヲ閲覽スルノ便ヲ得セシムト雖モ某学科教授上今仍ホ英語ヲ用フルモノハ邦語ノ殊ニ泰西ニ採ル所ノ學術上ノ思想ヲ交通スルニ適良ナラサルト随テ某学科ヲ修ムルノ用ニ充ツヘキ完整ナル書籍ノ供給ニ乏シキトニ職トシテ是レ由レリ因テ此等ノ需用ニ充ツヘキモノヲ造成スルノ計画ハ今日ニ在テ一日モ忽ニスヘカラス而シテ其修学ノ益利便ナランコトヲ欲セハ他邦ノ語ヲ用ヒスシテ邦語ヲ用フルニアリ又其学業ノ益精確淳美ナランコトヲ欲セハ各邦学事上ノ景況ヲ通觀シテ其我邦ニ採テ適実ノ用ヲ為スモノヲ択フニアリ夫レ方今泰西學術ノ精確淳美ナルハ歐洲中大概独逸国ニ過ルモノナキノミナラス其政法殊ニ我政法ニ參酌スヘキモノ少シトセス是ヲ以テ彼カ長ヲ採ルヨリ善キハナシ又極メテ採ラサルヲ得サルノ理由一ニシテ足ラサルナリ今其一班ヲ挙クルニ英語ヲ用フル国即チ英吉利及合衆国ニ於テハ政治ノ學問未タ進歩セス特ニ行政學ノ如キハ其書ヲ見ル稀ナリ故ニ到底英語ヲ用ヒテ政治學ヲ教授セント欲スルモ完全

ヲ期スヘカラス且政治學ノ如キハ最モ我國情ニ切ナルモノヲ択ヒテ之ヲ教授セサレハ後來國ノ安寧ヲ害スルノ恐レアリ蓋シ独逸国政治學者ノ講究スル所深淵該博ニシテ殊ニ我國情ニ於テ參酌スヘキモノ少シトセス是ヲ以テ独逸學術ヲ採ラサルヲ得ス又法学ノ如キモ独逸国ハ近年益帝國ノ基礎ヲ定メシヨリ銳意守成ノ術ヲ圖リ法律ノ改革ニ着手シ新究創見實ニ法理ノ蘊奧ヲ披ケリ殊ニ其國法ニ屬スル諸學術ノ旺盛ナル各邦ニ卓絶ス加之本邦ノ國法頗ル式ヲ独逸国ニ採ルヘキモノ多シ因テ之ヲ教授スルハ必要ナリ此ノ如キヲ以テ現今東京大學ノ實況ニ就キ能ク緩急順序ヲ審ニシ先ツ法文ニ学部并ニ予備門ヨリ改良セントス其理學部ノ如キモ固ヨリ改更ヲ要セサルヘカラサルハ勿論ナリト雖モ經費ノ不貲ナルヨリ不得已之ヲ第二ニ付セサルヲ得ス其醫學部ノ如キハ現ニ独逸語ヲ以テ教授ス是レ後議ニ付スル所以ナリ今其着手ノ条件左ノ如シ

- 一 從來教授上用フル所ノ英語ヲ廢スル
- 一 邦語ヲ用ヒテ教授スル
- 一 所用書類ハ國書訳書ノ外主トシテ独逸書ヲ講読セシムル
- 一 主トシテ独逸學術ヲ採ル

右ノ如ク実施スルニ就テハ内國教員ノ完備セルマテ善良ナル独逸国教師更ニ一二名ヲ増備シテ之ニ訳官ヲ附スルノ制ナカルヘカラス又主ハラ邦語ヲ用フルノ目的ヲ達センカ為メニ今日ヨリ着手スヘキノ必要緊務ハ學術字典本邦言語字典ヲ訳纂シ用書ヲ反訳セサルヘカラス而シテ學術字典ヲ製定スルニハ亦方法アルヘシト雖モ其概旨ハ内外國彼我ノ字典中最モ適良ナルモノ數種

ヲ扱ヒテ参互对照シ以テ完整ナル一種ノ學術字典ヲ訳纂スルニ在リ本邦言語字典ハ本省ニ於テ已ニ四年前ヨリ着手シ今殆ント其一半ヲ了セリト雖モ自今仍ホ五年ノ年月ヲ費サ、レハ竣工ニ至ラス此五年ヲ要スルモノハ經費ノ一端ニ係ルヲ以テ更ニ經費ヲ加ヘ担任ノ人員ヲ増セハ其竣工ハ今ヨリ三四年ヲ出テサルヘシ用書ハ原書ノ撰定著訳ノ体裁其他種々ノ事ニ係リ特ニ精確ナル檢覈ヲ要スルモノ一ニシテ足ラサルヘシト雖モ姑ク其概旨ヲ挙クレハ先ツ専門各学科ニ関スル著書中其有用適切ナルモノハ勉メテ之ヲ反訳シ或ハ彼此折衷シ其宜シキニ適スルモノヲ訳纂シ其他專ハラ参考ノ用ニ供スヘキ善良ナルモノハ之ヲ反訳スヘシ此等ノ事タル一大業ニ属シ巨大ノ資金ヲ要スヘキカ如シト雖モ一旦其工ヲ竣レハ全ク邦語ヲ用ヒテ専門各学科ヲ授クルヲ得爰ニ始メテ従来ノ目的ヲ達スト謂フヘシ然ルハ字典訳纂ニ就テ独リ學術上ノ言語ヲ得ルノミナラス之カ為メ自ラ訳語ノ一定ヲ得世間訳語ノ区々ニ渉ルノ弊ヲ一洗シ又純正ナル本邦言語ノ字典アルハ邦語ヲ用ヒテ百般ノ學術ヲ教授スルノ便益ヲ与フルノミナラス一般本邦言語ノ發達ヲ助クルノ一大要具トナルヘシ又善良ナル用書ノ反訳書ニ富ムハ授業上邦語ヲ用フルニ障碍ナキノミナラス内國教員ヲ以テ外國教員ニ代用スルノ実益ヲ得且精確淳美ナル独逸國學術ヲ容易ニ輸入スルニ至ルヘシ此ニ由テ之ヲ觀レハ其效益実ニ鮮カラストス今ヤ時期正ニ至レリ着手ノ捷速ナランコトヲ欲シ而シテ其成功ノ甚タ為シ難キニ非ルヲ信ス因テ東京大學學術ノ改良ニ着手シ學術字典本邦言語字典訳纂用書編纂ノ件ハ今日ヨリ起リ向九箇年ヲ期シ其冊ノ多寡其

部ノ大小ニ隨ヒ逐次陸統工ヲ竣ヘ第九年マテニ全ク成功スルモノトシ而シテ之カ為メニ費スヘキ資金ハ凡見積總計貳拾四万円余ニシテ尤モ一時ニ支出ヲ要スヘキモノニ非ス又永遠ニ渉ルモノニ非ス之ヲ九箇年間ニ分割シ年々多少ノ差異ハアルヘシト雖モ大抵毎年平均貳万七八千円ヲ超過セス此大業ノ要緊如何ニ比スレハ蓋シ巨額ト謂フニ足ラサルヘシ就テハ特別ノ御詮議ヲ以テ前陳ノ件々御裁允相成右資金年々御下付有之候様致度此旨上申候也

明治十六年四月

文部卿 福岡孝弟

太政大臣 三條實美殿

上申ノ趣聞届候事

但經費ノ儀ハ其省定額内ヨリ精々差繰支弁シ尚不足アルハ伺出ヘシ

明治十六年五月一日

(注記 2)

文部省上申東京大學其学科教授上ニ用フル英語ヲ廢シ邦語ヲ用ヒ字典訳纂用書反訳独逸學術ヲ採ル等之事

右謹テ奏ス

明治十六年四月三十日

圖

太政大臣 三條實美 印

左大臣 熾仁親王 印

参議 大木喬任 印

参議 山縣有朋 印

参議 西郷從道 印

- 参議 井上 馨 印
- 参議 山田顯義 印
- 参議 松方正義 印
- 参議 川村純義 印
- 参議 福岡孝弟 印

明治十六年四月十六日

大臣 花押 花押

内閣書記官 印

文部省上申東京大学某学科教授上ニ用フル英語ヲ廢シ邦語ヲ用ヒ字典訳纂用書反訳等並ニ独逸學術ヲ採ルノ件ニ係ル之事

右回議ニ供ス

- 参議 大木花押 伊藤 西郷 山田 大山 福岡
- 山縣 井上 松方 川村 佐々木

明治十六年四月十六日

第二局 印

別紙文部卿上申ノ大旨ハ東京大学ニ於テ法學文學ノ教授上英語ヲ用フルヲ廢シ代フルニ邦語ヲ以テシ専ラ独逸學術ヲ採用シ並字典用書等ヲ訳纂セントスルニ在リ依テ案スルニ大学ノ教授上外國語ヲ以テスルハ其専門学科創立ノ際外人ヲ用ヒテ授業ニ任シ不得已其國語ヲ用ヒタルヨリ因襲セシ義ニシテ其修學上ニ不便アルハ勿論將來邦語ヲ以テスルハ兼テ期圖セシ所ナレハ今日

ニ及テ漸ク邦語ニ改メントスルハ大モ美事ニ有之其独乙學術ヲ扱テ之ヲ採ルハ上申書中ニモ陳フルカ如ク政治法律等ノ学科ヲ修ムルニ於テ最モ適切ニシテ殊ニ此学科ノ如キ盛ニ其進歩ヲ奨励ス可キノ今日ニ方テハ愈之ヲ必要トスルノ時機ニ有之候得ハ上申ノ旨趣至テ當ヲ得タル者ト思考候間上申ノ通裁可セラレ右改良ニ係ル字典用書訳纂等ノ費用ハ巨額ニモ無之ニ付可成同省定額金ノ内ヲ以テ差繰支弁シ尚不足ノ節ハ伺出候様御指令相成可然哉左案ヲ具シ仰高裁候也

御指令案

上申ノ趣聞届候事

但經費ノ儀ハ其省定額内ヨリ精々差繰支弁シ尚不足アルハ伺出ヘシ

明治十六年五月一日 印

〔注記1〕

〔四〕〔簿冊内件名番号〕

〔注記2〕

〔濟〕

〔注記3〕

〔秘ノ文甲一五号〕

〔注記4〕

〔江〕

〔自明治十五年至同十八年公文別録 文部省 24.1. 29 印〕